

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100182		
法人名	株式会社トゥルーケア		
事業所名	グループホーム ハイブリッジ(1丁目)		
所在地	宇都宮市若松原1-11-10		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の活性化を目指し、毎月の外出や外食支援、日々の散歩や買い物、ドライブなど外へ出かける機会を多くもつよう努力しています。また、毎月来訪してくださるボランティアさんも多岐に渡り(日舞、ハワイアン、民謡、そば打ち、歌謡ショーなど)毎回、交流を深めています。特に大きな行事の際にもご協力いただき機会ある毎に参加していただきます。地域行事のお誘いも多く(餅つき、運動会、夕涼み会、バザー、敬老会など)近隣の幼稚園児や住民の皆様とのふれあいを大事にしています。行事開催時には、近隣住民の皆様、利用者様ご家族のご参加を、積極的にお願ひし交流の機会を作っています。今後も地域社会の皆様やご家族との交流を図り、利用者様方のADLの向上、維持を目指すと共に活気ある、生活ができるよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは住宅地にあり、敷地内に地域交流センターが併設されていて、様々なイベントを開催している。ハイブリッジ通信(広報誌)を発行して、ホームのイベント告知や報告などを掲載して地域住民にも回覧して参加を呼びかけたり、地域の行事にも積極的に参加して、地域住民との交流を大切にしている。理念にも掲げている「明るく元気に挨拶・いつも笑顔でゆとりの介護」を徹底しており、研修や出前講座にも力を入れ、職員の質の向上につとめている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく元気に挨拶、いつも笑顔でゆとりの介護」を理念とし折に触れ確認、認識を改め日々の介護や生活支援を行っており、管理者は理念に基づく指導、教育を実施している。また、玄関に理念を掲示し常に周知をしている。	理念を玄関・スタッフルームに掲示し、日々利用者と関わる際に理念を念頭におき、実践につなげている。唱和はしていないが、管理者の指導、教育の下において、常に振り返りながら、ケアに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア、地域住民の来訪を積極的に受入れすると共に地域の行事などに参加し交流を常に行っている。また、散歩の折など気軽な交流を心掛けている。	自治会に加入し、ポスターや、ハイブリッジ通信等の回覧をお願いしている。食事会・敬老会・餅つき等に参加し、イベント参加を募るなど、利用者と地域住民との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催及び行事参加の機会を利用し積極的に発信している。また、機関紙を定期的に配布し認知症に関する理解を深めて頂ける様、努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場にて現状の問題点や取り組み内容を常に報告し、改善点や疑問点について、話し合い、意見交換を行っている。また、その結果を日々のサービス向上に反映させる努力をしている。	運営推進会議は家族等全員に参加を募り、2ヶ月に1回開催し、自治会長・民生委員・地域包括支援センター等の参加により実施している。出席できない家族等には議事録を報告している。活動報告の他、改善点・疑問点等について意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	地域の人等が運営を見守ったり、協力者として助言・支援を得るためにも、警察・消防署等の多くの参加者を募り、曜日・時間の設定等も考慮しながら参加メンバーからの素直な意見が取り入れられるように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の一員として地域包括支援センター担当者に出席頂き、ホームの実情を伝えていく。また、市担当者にはケアサービスについての相談をし協力して頂いている。	管理者始め、各フロア一長は市の窓口に出向き、担当者とホームの実情報告をするともに、ケアサービスの取り組み等について折に触れ、市から助言等をいただいたりして情報の共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害については定期的に講習を受け職員全員が周知している。また、マニュアルを作り拘束をしない支援に繋げている。以前指摘頂いた玄関の施錠に関しては時間を決め解放し自由に入出りできる時間を設けている。	管理者、職員は身体拘束によって、利用者に与える身体的、精神的苦痛を理解し、拘束のないケアの支援をしている。マニュアルを作成し、定期的な講習等において周知を図っている。なお、玄関等の施錠においては家族了解のもとで、職員見守りのなか、時間を決めて開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各職員の対応を厳しくチェックしている。問題ある対応がある場合は早急に個人指導、注意喚起し反省、改善を行ってもらっている。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用対象となる入居者様が活用できる支援体制は整っている。必要があれば迅速に対応できる。全職員が制度に精通しているわけではないが、入居者様の個々の事情は報告されており支援に支障はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改訂の際は十分に説明を行い納得している。また、解りやすい説明を心掛け不安や疑問点については気軽にご相談頂ける様に平素より交流を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族との交流を常に図り意見、要望に対しては真摯に対応している。また、行事や運営推進会議の場を使い発言頂ける様配慮している。意見は柔軟に運営に反映させている。	行事や推進会議の場において、管理者、職員は家族の心情を察し、家族同士の紹介を促がしてより多くの意見や要望をだしてもらえよう働きかけ、それらを運営に反映させている。また、利用開始時に、事業所以外にも苦情機関を表せる場がある事を説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議での意見交換を始め日常的に管理者との話し合いは行われている。代表者、管理者は柔軟に対応し運営に意見を反映させる努力をしている。	毎月月初めに職員会議を開催し、職員からの意見や提案を聞いている。職員の提案により利用者や訪問者が気楽に休める共用空間づくりがされた。また、職員の内外研修や出前講座によりサービスの質の向上と意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の勤務状況を把握し不満、不平があれば、相談を受け本部に報告をしている。そのうえで改善点を話し合い職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や希望に応じ資格試験、研修等の受講を支援している。また、折に触れ資格取得の必要性を説明している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の行事(夏祭り、バザーなど)に利用者様と職員同伴にて参加している。現在、勉強会や相互訪問の実現に向けて働きかけをしている。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴などの情報を事前に把握し、本人様の気持ちを尊重した支援ができる様職員間で話し合い不安の軽減ができる様な対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至る、ご家族の思いや辛さを傾聴し、共感する姿勢を大事にしている。不安や要望を遠慮なく話せるような対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族の意向、希望を十分に伺い、優先すべきサービスを見極め、提供している。利用者様本位に考え他のサービスが必要であれば利用を勧める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思、意向を尊重し、日々の暮らしの中で自己の役割や有用性を見いだせる様な支援を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡、連携は密に行っている。利用者様の状態変化をその都度、報告し協力をお願いしている。外出や通院など出来る限り、同行をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方の来訪時は気持ち良く過ごして頂けるように支援している。再訪頂けるように、行事等にお誘いしたり折にふれ連絡を取り合う様に利用者様に働きかけている。	ホームを利用していても、今迄の生活の延長線上であるように、友人・知人等に会いに行ったり、行事等に声かけ一緒に食事を摂ってもらうなど訪問してもらいやすい工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が不快な思いをしない様に、互いの関係を把握しており、孤立しない様に他のユニットの利用者様も含め仲間作りを支援している。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も情報交換や近況報告を互いに行い、介護に対する悩みや相談を受けている。気軽に訪問頂ける様な関係作りに留意している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴に努め本人の希望や意向を汲み取る様に努力している。把握が困難な場合はご家族、職員間で情報交換、検討を行い把握に努めている。	日常生活での会話や様子で希望・意向の把握に努めている。意志疎通が困難な方は、家族等から情報を得たり、日々の行動や表情から汲み取り職員間において情報を共有・検討し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントやご家族から生活歴や、趣味などの情報を提供して頂いている。また、日々の利用者様との交流を通じ今までの暮らしについてお話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に様子観察、見守り、交流を通し現状の状態把握に努め、職員間で生活記録や口頭での申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングやカンファレンスを行い、利用者様の課題については関係者全員把握している。ケアのあり方については機会あるごとに確認をとり、意見の交換を行い介護計画に反映している	毎月、カンファレンス等において、設定期間毎の見直しや、利用者、家族のニーズ等を把握し、利用者個々の生活記録や申し送り、連絡帳等を活用し情報の共有に努めている。おおむね見直しは3か月として、状態に変化が映じた場合は協力医の意見を加味して作成し、家族にも報告をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個々の生活記録に日々の小さな変化を記録したり、申し送り、連絡帳を活用して情報の共有を図り、状態変化に応じた介護計画の見直しを行い実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族の状況に合わせて柔軟な対応を行っている。外出支援、買い物、医療機関受診同行などニーズに添ったサービス体制をとっている。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアや近隣保育園児との交流、地域民生委員との関係持続を始め、市主催の出前講座の利用、消防署による火災予防訓練、救命訓練など多様な社会資源を活用している。図書館、公民館等の催し物見学や音楽鑑賞に常に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師を利用者様、ご家族の了承の上、かかりつけ医としているが、希望がある場合はその限りではなく、他の医療機関を自由に受診して頂いている。	利用者、家族等の希望によるかかりつけ医療機関は、家族通院にて支援し、協力医療機関の受診は職員対応、又は2週間に1回の往診を仰いでいる。眼科は頻度で家族との通院として、歯科は訪問歯科にて対応し、情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本ホーム内職員には看護師はいないが、協力医療機関の医師の指導の下、往診前に各利用者様の情報提供を行い、急変、状態変化時には適切な指示、受診が受けられる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医師、ソーシャルワーカーとは必要に応じ連絡を取り合っている。利用者様の早期退院を願い、ご家族、医療関係者との連携を図り、情報交換は常に行っている。また、許す限り面会に職員交代で行き、関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や急変時の対応については、ご家族と話し合い、意向は伺っている。また、早い段階から、かかりつけ医と話し合い利用者様、ご家族とともにその時の状況は共有している。緊急時対応マニュアルを作成し緊急時の対応に努めている。	急変時の対応や終末期の対応について、家族と話し合い意向を確認している。緊急時対応のマニュアルを作成し協力医との連携を図って情報交換はしているが、今迄看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の研修、応急処置、緊急時対応マニュアルを作成し急変時、事故発生時の対応にあたっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の方と共に防災避難訓練を実施。夜間時に備え少人数での避難訓練も実施している。自衛消防活動にて安全管理に努めている。地域の方の参加をお願いし緊急避難所としての活用を提案している。	年2回、消防署の指導にて、夜間想定訓練も含めた防災避難訓練を実施している。運営推進会議で、地域住民の参加をお願いしている。また、自治会に災害時の避難場所として提供することを提示している。	職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域の人達の協力が実際に得られるよう、日頃から話し合いを行い一緒に訓練を行う等、実践的な取り組みや、職員連絡網との連携の構築に期待したい。

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちを尊重し自尊心や誇りを傷付けない様に言葉使いや対応に配慮している。プライバシーを尊重し、入室時、トイレ介助時にも声掛けを行っている。記録等は事務所にて、管理している。	目立たずさりげない言葉かけや、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや、希望を傾聴しさりげない支援を心掛けている。理解しやすい言葉かけや、促しを通し自己決定しやすい状況を作り、話やすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活である為、若干の制約はあるが、一人ひとりのペースを大事にしている。決まりや、予定を強要することなく、利用者様の気持ちや、体調を重視している。一日をどのように過ごすかは利用者様自身に決めて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さまの希望に添った、整容や、おしゃれを支援している。季節にあった衣類を提案し、美容院へ行ったり、理、美容師の資格のある職員にカットを依頼されるなど希望に応じて対応している。化粧品など好みで所持されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の得意な分野を引き出し、味見や盛り付け、配膳など職員と協力し合いながら食事の準備や後片付けをお願いしている。好みを伺い手作りおやつを全員で作ることもある。	本部の栄養士の献立による調理済みの物が運ばれ、盛り付けはホームにて利用者と職員が一緒に行っている。職員は介助や会話をしながら一緒に食事を摂っている。おやつは好みの物、食べたい物等を聞き、利用者と一緒に作り、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは納入業者の栄養士に一任しているがメニューのカロリー表示にて確認、チェックしている。摂取量の把握はしており、不足がある場合は個別に対応し必要な栄養、水分は摂って頂けるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行って頂くようお願いしている。十分に行えない方や、自力では無理な方には職員が介助している。定期的に往診歯科医のお口ケア診断を行っている。		

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握し排泄誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。日中のパットやおむつの使用を控えるなど排泄の感覚を大事にしている。排泄誘導時には声かけに注意し自尊心を大事にした対応を心掛けている。	可能な限りトイレで気持ち良く排泄するための工夫を重ねた支援をしている。日中のパットやオムツの使用を控え、把握した排泄パターンをもとにさりげない声かけや誘導をし、羞恥心や不安を軽減するための配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は納入業者から一律に納入される為、工夫できる範囲は限られるも、ホームで栽培した野菜や近隣の方からの手作り野菜、果物の差し入れがあり、頻繁にお出ししている。適正な水分摂取に配慮し、日々の運動を心掛けている。改善見られない場合は医師と連携をとり個々に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数は利用者様の意向を聞き、柔軟に対応している。時間帯は午前中に実施することが、多いが、希望に応じて随時行っている。好みのシャンプーなど自由に使用頂いている。	午後のレクリエーションや外出等の支援のため、午前中に入浴支援を行っているが、寝際の入浴希望者など利用者の意向を把握し個々に沿った支援をしている。入浴介助時は職員との大切なコミュニケーションの場の1つとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が希望すれば随時、休息をして頂いている。個人の生活習慣や体調を重視している。季節に合わせた温度管理や居室内の環境整備は適宜行い、清潔な寝具、パジャマの提供に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師と連携し、薬の目的、副作用、用法、用量は処方箋を通じ説明を受け理解している。誤薬のないように複数の職員でチェックし服用時には本人確認を実践している。薬の変更や症状変化があった時は詳細に記録し申し送りを行っている。また、かかりつけ医へ連絡、報告を速やかに行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの生活歴の理解に努め、得意なことや趣味などを毎日の生活に活かせる様に配慮している。嗜好品や楽しみごとは積極的に取り入れ気分転換を図っている。また、役割を実感出来るような声かけを工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の求めに応じ支援している。積極的な要望が無い場合でも本人が行きたいのではと、思われる場所を(お墓参り、飲食店、公園など)提案している。遠方の場合は家族様やボランティアの方々の協力をうけ外出支援を行っている。	利用者の意欲や自立を保つため、ホーム周辺の散歩や外出の支援をしている。お墓参り、飲食店、公園等、また職員の情報により利用者一人ひとりに即した外出をして楽しまれている。	

グループホームハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望や能力にあわせ支援している。所持や管理のできる方には積極的に支払いを行って頂いている。困難な方においても外出時など必要な金額をお渡しし、支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に添って、ハガキや手紙の投函を支援している。最近ではFAXを利用されることもある。家族様等から電話があれば必ず本人に繋ぎ、機会ある毎に会話して頂いている。また、利用者様が希望すれば常時、電話をかけて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は毎日行い温度や音、光に配慮し、落ち着いた空間になる様に努めている。人によって好みに差があるも季節の花や創作物を飾り、それぞれの利用者様に居心地よく過ごして頂けるように、配慮、努力している、	生活感や季節感のある物を上手く活用しながら、暮らしの場を整えている。利用者と職員の手作りの作品や季節の花を飾っている。換気等も適切に管理され、畳み敷きが傍らにあったり、ソファが置かれたりして、利用者それぞれに、ゆったりと過ごせる空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様個人の居室があり、プライバシーには気をつけている。また、玄関前にソファを置き、自由に集まり会話されている。各フロアは行き来が自由に出来、利用者様は気分に合わせて、交流を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みや希望に合わせて、お好きな物をお持ち頂いている。馴染みの品や記念品などを居室の見える場所に飾り、居心地よい、空間を工夫している。	安心して過ごせる環境作りがされている。筆筒、ペットは備え付けとし、清潔を保つためにも、リネン類はレンタルで、居室入口に交換日が記されている。小物等は馴染みの物を持ち込み利用者それぞれの個性を出した居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	てすりを各所に取り付け、トイレや浴室など共同で使用する場所に関しては見やすく、分りやすい表示を心掛けている。車イスや歩行器で移動できるよう障害物を置かない様に注意している。		